

# 6月6日は「補聴器の日」 酵素分解「蜂の子」が耳鳴りを軽減 ～自覚症状軽減効果を論文発表～

株式会社山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町 代表・山田英生）は、酵素分解「蜂の子」が耳鳴りの自覚症状を軽減させることを、岐阜大学医学部附属病院・医療情報部の青木 光広准教授との共同研究により、初めて臨床試験にて科学的に実証しました。そして、この度、研究成果が学術誌「薬理と治療」に掲載されました。

## 【耳の健康を考える】

6月6日は「補聴器の日」です。耳の「聞こえ」等、耳の健康でお悩みの方は多くいらっしゃいます。特に、耳鳴りは、成人の4人に1人が慢性的に感じていると言われ、集中力の低下や不眠、不安感といった精神的なストレスを引き起こすなど、生活の質の低下を招く重大な問題となっていますが、有効な治療法が見つかっていません。そこで、山田養蜂場は青木准教授と共同研究を行い、酵素分解「蜂の子」の飲用により、耳鳴り自覚症状軽減の効果を科学的に検証しましたので、その結果を報告致します。

## 【試験内容】

軽度の耳鳴りを自覚する健康な男女60名を2グループに分け、一方のグループには酵素分解「蜂の子」粉末(1,080 mg/日)と GABA(γ-アミノ酪酸)<sup>\*1</sup>、ビタミン B<sub>12</sub> を含むカプセルを、もう一方のグループには「蜂の子」の粉末等を含まないカプセル(プラセボ<sup>\*2</sup>)を12週間飲用してもらった。その後、耳鳴りの感じ方を評価する耳鳴り VAS(Visual Analog Scale)<sup>\*3</sup>、疲労感を測る CFS<sup>\*4</sup>などの主観的評価をプラセボ対照ランダム化二重盲検試験<sup>\*5</sup>にて調べた。

### ①耳鳴りの感じ方を軽減

VASにより、耳鳴りの自覚症状を調べた結果、「耳鳴りの大きさ」「耳鳴りの長さ」の2項目は、プラセボ群では飲用前後に有意差はなかったが、酵素分解「蜂の子」群では、飲用前後で有意差が得られ、軽減していたことが分かった(右図)。

### ②疲労感の軽減

アンケートにて疲労感スコア(CFS:Chalder Fatigue Scale)を調べた結果、酵素分解「蜂の子」群は、飲用前と比べて疲労感が軽減する傾向があることが明らかとなった。

## 【まとめ】

酵素分解「蜂の子」は、耳鳴りの主観的な感じ方を和らげ、疲労感を軽減させる傾向があることが明らかになった。

以上のことより、酵素分解「蜂の子」の継続飲用は、耳鳴りで悩む方の苦痛を和らげることが期待される。

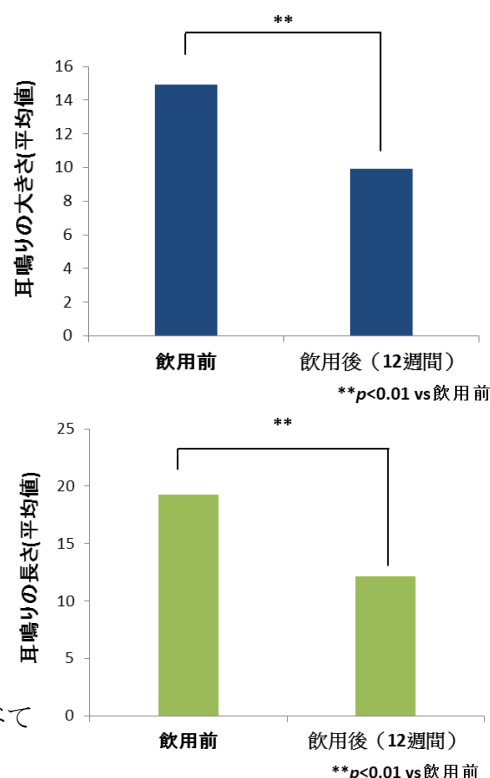


図1:「蜂の子」の耳鳴り自覚症状の軽減作用(主観的評価)

<本件の「記事掲載」に関するお問合せ先>

株式会社山田養蜂場 文化広報室 関(ts0975@yamada-bee.com)

〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194

TEL:0868-54-1906 (月～金 9:00～17:30、土日祝除く) / FAX:0868-54-3346 / HP:http://www.3838.com

みつばち健康科学研究所 HP: http://www.bee-lab.jp / Twitter: @yamadabeelab / Facebook: https://www.facebook.com/bee.lab.3838

### 〈参考論文〉

1) M. Aoki et al., Significant Symptomatic Benefit of the Enzymolyzed Honeybee Larvae for Patients with Mild Self-perceived Tinnitus Handicap –A Double-blind Placebo-controlled Trial-, 薬理と治療, 43(4), 507-514 (2015)

### 〈用語説明〉

※1 GABA( $\gamma$ -アミノ酪酸): 天然に存在するアミノ酸の一つで、無脊椎動物から脊椎動物、植物にいたるまで広く自然界に存在する。哺乳類の脳抽出液中から発見され、その後、脳髄や延髄に多く含まれ、抑制系の神経伝達物質として働き、脳の血流の活発化などに有用であることが明らかになっている。

※2 プラセボ: 外見は被験品と同一であるが、成分としては効果が無いもの。思い込みによって生じる効果(プラセボ効果)を除くために用いられる。

※3 VAS: Visual Analog Scale(視覚的評価スケール)の略。耳鳴りの大きさ、長さ、頻度、気になり方を自己記入し、点数化する方法。「0」を「耳鳴りが無い」状態、「10」を「これ以上ないくらい強い耳鳴り(これまで経験した一番強い耳鳴り)」状態として、現在の痛みが10cmの直線上のどの位置にあるかを示す。スコアが高い程、主観的な耳鳴りの感じ方は強くなる。

※4 CFS: Chalder Fatigue Scale の略。一般的諸症状に関する設問および疲労感調査表。

※5 ランダム化二重盲検試験: 被験者のグループ分けを無作為(ランダム)に行った上で、それぞれのグループが摂取しているものが被験品なのかプラセボなのか、被験者にも観察者にも分からないように実施する試験デザイン。被験者におけるプラセボ効果や、観察者バイアス(被験品を摂取しているグループで望ましい効果が現れるはずだとの偏見)を除くことができるため、科学的信頼性の最も高い試験デザインである。